

# アトピー性皮膚炎の効能又は効果を持つ経口JAK阻害薬又は生物学的製剤一覧

## 経口JAK阻害薬

## 生物学的製剤

### 薬剤名

ウパダシチニブ

バリシチニブ

アプロシチニブ

### 薬剤名

デュピルマブ

ネモリズマブ

トラロキヌマブ

薬剤名	効能又は効果	用法及び用量
ウパダシチニブ	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 (最適使用推進ガイドライン対象)	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 通常、成人にはウパダシチニブとして15mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態に応じて30mgを1日1回投与することができる。通常、12歳以上かつ体重30kg以上の小児にはウパダシチニブとして15mgを1日1回経口投与する。
バリシチニブ	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 (最適使用推進ガイドライン対象)	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 通常、2歳以上の患者には体重に応じバリシチニブとして以下の投与量を1日1回経口投与する。 ・30kg以上:通常、4mgとし、患者の状態に応じて2mgに減量すること。 ・30kg未満:通常、2mgとし、患者の状態に応じて1mgに減量すること。
アプロシチニブ	既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 (最適使用推進ガイドライン対象)	通常、成人及び12歳以上の小児には、アプロシチニブとして100mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態に応じて200mgを1日1回投与することができる。
デュピルマブ	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 (最適使用推進ガイドライン対象)	(抜粋) 〈アトピー性皮膚炎〉 通常、成人にはデュピルマブ（遺伝子組換え）として初回に600mgを皮下投与し、その後は1回300mgを2週間隔で皮下投与する。通常、生後6カ月以上の小児にはデュピルマブ（遺伝子組換え）として体重に応じて以下を皮下投与する。 5kg以上15kg未満1回200mgを4週間隔15kg以上30kg未満1回300mgを4週間隔30kg以上60kg未満初回に400mg、その後は1回200mgを2週間隔60kg以上初回に600mg、その後は1回300mgを2週間隔
ネモリズマブ	アトピー性皮膚炎に伴うそう痒（既存治療で効果不十分な場合に限る） (最適使用推進ガイドライン対象)	通常、成人及び13歳以上の小児にはネモリズマブ（遺伝子組換え）として1回60mgを4週間の間隔で皮下投与する。
トラロキヌマブ	既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 (最適使用推進ガイドライン対象)	通常、成人にはトラロキヌマブ（遺伝子組換え）として初回に600mgを皮下投与し、その後は1回300mgを2週間隔で皮下投与する。